19 急性心筋梗塞後stunningとI-123 BMIPP,Tl-201心筋シンチの推移との関係

近藤真言、中野　顕、徳永　智、霜野幸雄（市立島田市民病院循環器科）、秋山清純、森　佳久、野末恭弘（放射線科）

急性心筋梗塞(AMI)後の心機能と心筋代謝の推移についてBMIPPシンチから検討。対象は、初回発症のAMI１３例である。全例急性期、慢性期にBMIPP、Tl心筋シンチを施行。心機能の評価は心エコーでのwall motion scoreの変化で評価した。BMIPPで初期像から遅延像にかけ変化したのは１例のみ（逆再分布）で、急性期から慢性期にかけての欠損縮小は１例のみであった。Tlでは８例で慢性期で欠損は縮小化。BMIPPで壁運動とは急性期によい一致をみるが、心機能の回復とはTlとは異なり乖離を示す傾向にあった。MI後stunning回復と心筋代謝の糖代謝へのスイッチからの回復は短期的には平行しないと考えられた。

20 Hibernating myocardiumの心機能改善と心筋脂肪酸代謝の関連性

外山卓二、星崎洋、岡本栄一、神山宏、内藤滋人、野上昭彦、大島茂、谷口興一（群馬県立循環器病センター）

PTCAまたはCABG前後のHibernating myocardiumの局所壁運動改善と心筋脂肪酸代謝との関連性を検討した．対象は虚血性心疾患８例。心筋脂肪酸代謝はPTCAまたはCABG前、施行３ヶ月後に安静時BMIPP心筋SPECTより評価し，同時にTl心筋SPECTにて心筋灌流を，LVGにて局所壁運動を視覚的に評価した。術前に比し術後の壁運動改善は術前のBMIPPとTlの解離（Tlに比しBMIPPの集積低下が著明な領域）した領域において認められた．この領域は術後解離が縮小した。Hibernating myocardiumの心機能改善に心筋脂肪酸代謝の改善が関与していることが示唆された。

21 Hibernating myocardiumの回復過程における脂肪酸代謝の変化：壁運動との対比検討

小野晋司、本原征一郎、上畠拓、玉井秀男、上田欽造、許永勝、田中省三、岡田正治、芹生陽一　（滋賀県立成人病センター循環器科）

PTCAによる血行再建後のhibernating myocardiumの回復過程を壁運動および心筋脂肪酸代謝につき対比検討した。　虚血性心疾患１０例を対象とし、PTCA前後および慢性期に施行したLVGおよび^{123}I-BMIPP SPECTより各々壁運動(centerline法)、脂肪酸代謝(% BMIPP uptake)の評価を行った。　壁運動は血行再建後早期より回復を認めたが、脂肪酸代謝は急性期には有意な変化を認めなかった。　Hibernating myocardiumの回復過程において壁運動と脂肪酸代謝の乖離が生じる可能性が示唆された。

22 Hibernating myocardium(HM)における心筋脂肪酸代謝の検討

下永田 剛、南都伸介、大原知樹、井上佳代子、鷹野 譲、西村佳子、久堀周治郎（関西労災病院内科）
西村恒彦（大阪大学医学部ﾄﾚｰｻｰ情報解析）

労作性狭心症10例を対象とし、PTCA施行前、施行1ヶ月後にTl,BMIPP二核種同時収集心筋SPECT(Dual SPECT)、冠動脈造影および左室造影を施行、PTCA施行領域におけるTlおよびBMIPPの心筋集積と左室壁運動の関係を検討した。PTCA前において、壁運動低下領域におけるTlとBMIPPの心筋集積には解離が存在し、Tlに比しBMIPPの集積は低下していた。PTCA施行1ヶ月後に壁運動の改善を認めた症例において、Dual SPECTにおけるTlとBMIPPの心筋集積はともに改善し、PTCA前に存在した両心筋製剤の集積解離は減少した。HMにおいて心筋脂肪酸代謝の改善とともに壁運動の改善することが示唆された。

23 Hybernating myocardium での心機能とI-123 BMIPP,Tl-201心筋シンチの推移との関係

近藤真言、中野　顕、徳永　智、霜野幸雄（市立島田市民病院循環器科）、秋山清純、森　佳久、野末恭弘（放射線科）

hybernationでの心機能の改善と心筋血流、代謝の改善との関係について検討した。対象は、急性心筋梗塞後６例、不安定型狭心症１例である。全例にPTCAを安定期に施行、その前後でBMIPP、Tlシンチを撮影し、更に両シンチを経時的に検討した。PTCA前に両シンチで冠動脈枝に一致した領域に欠損を認めた。冠動脈の拡張が得られ、壁運動の改善が確認された後、Tlでは早期に欠損像の改善を認めたが、BMIPPでは欠損が持続した。hybernationでは、血流の回復によって心機能は改善し、viableな心筋の存在が示されるが、その心筋代謝は長期に糖代謝にスイッチした状態が持続されていると考えられる。

24 運動負荷後局所壁運動異常の改善様式の検討
—脂肪酸代謝の見地から—

石黒　聡，山崎純一，細井宏益，飯田美保子，方　眞美，武藤　浩，蒲野俊雄，森下　健（東邦大一内）

虚血性心疾患における運動負荷後の壁運動異常遷延の機序を脂肪酸代謝の見地から検討した．対象は運動負荷断層心エコー図（ESE）で壁運動異常を観察し得た労作性狭心症8例で、全例に運動負荷I-123BMIPP（BM），Tl-201（Tl）dual SPECTを施行した．この際，BM，Tlは運動負荷終了後15分後に静注した．ESE所見より壁運動異常が20分以上遷延したA群と20分未満でbase lineに復したB群に分類した．A群では高率にBM欠損を示し，B群ではBM欠損を示す症例と示さない症例が混在した．TlはA群，B群ともに欠損を示す症例と示さない症例が混在した．以上より，虚血性心疾患における運動負荷後の壁運動異常遷延に脂肪酸代謝障害の関与が示唆された．

Presented by Medical*Online